

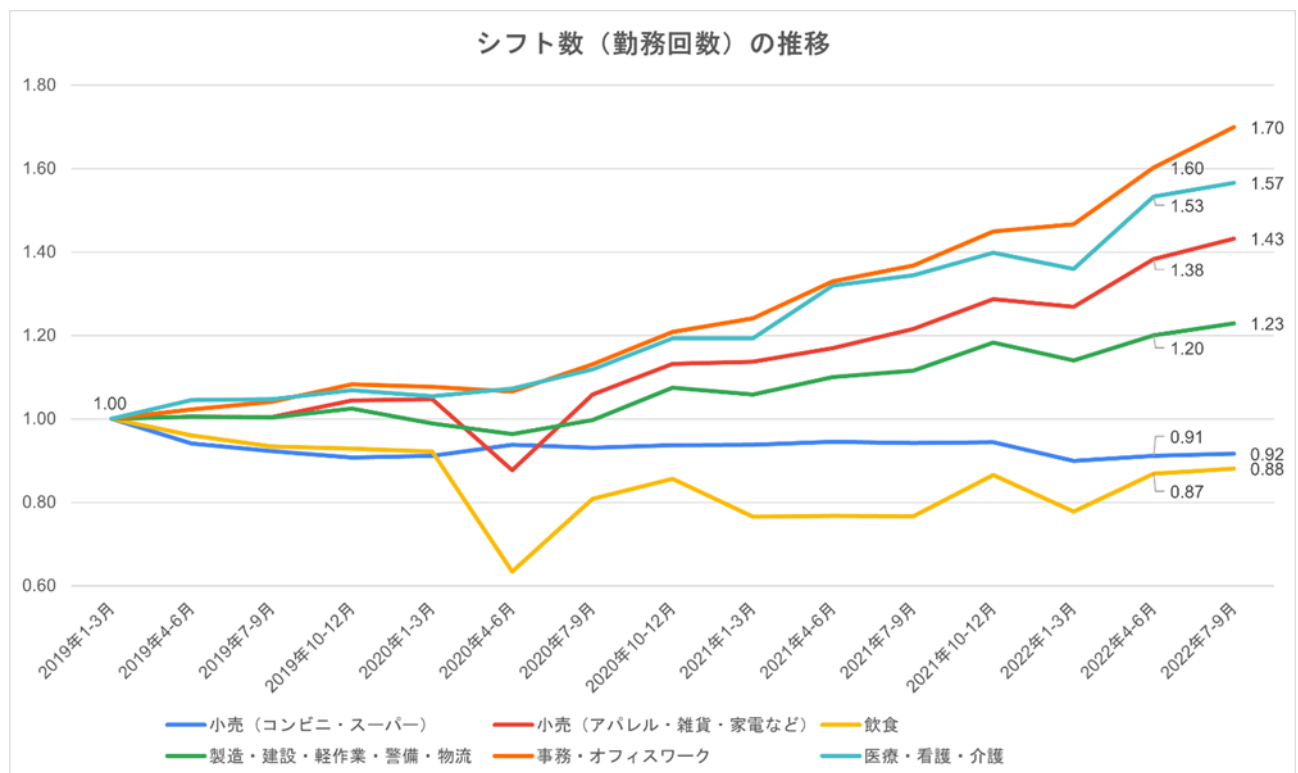
アルバイト・パートスタッフのシフト動向調査－業種別－ シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』活用状況にみる労働実態 2022年7-9月時点

- ◆ シフト数（勤務回数）とシフト人数（スタッフ数）は多くの業種で新型コロナウイルス感染拡大前と比較して増加傾向
- ◆ 度重なる行動制限の影響を受けて他業種への移動が見られた飲食業のシフト人数も2022年4-6月比で微増しており回復傾向
- ◆ 一人当たりの月間労働時間は依然として高水準

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）は、シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』ユーザーの活用状況から、アルバイト・パートスタッフのシフト数（勤務回数）、シフト人数（スタッフ数）、および一人当たりの月間労働時間について調査しました。

「小売（コンビニ・スーパー）」「小売（アパレル・雑貨・家電など）」「飲食」「製造・建設・軽作業・警備・物流」「事務・オフィスワーク」「医療・看護・介護」の6業種における、新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年1月から2022年9月までの推移データを発表致します。

1. シフト数（勤務回数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）



本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

2022年12月22日

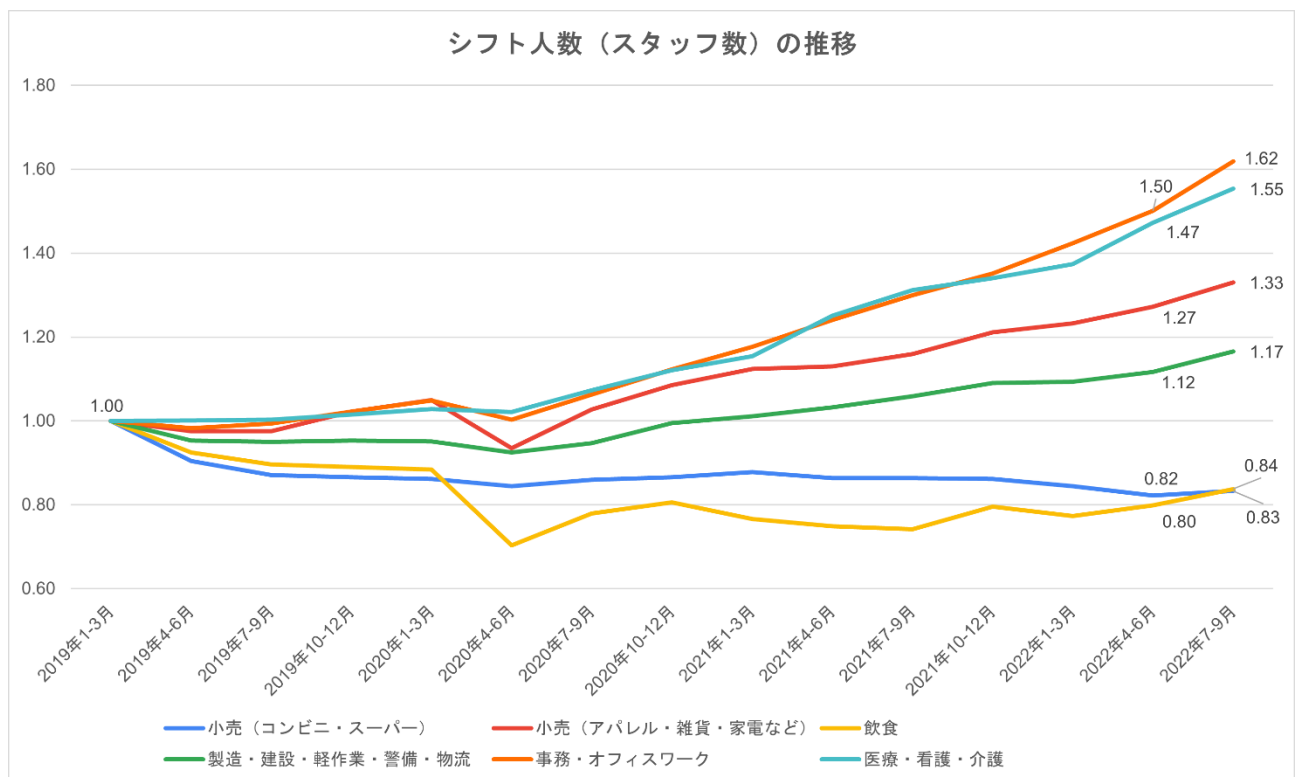
■ 2022年7-9月のシフト数（勤務回数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年4-6月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.92	1.01
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.43	1.04
飲食	0.88	1.01
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.23	1.02
事務・オフィスワーク	1.70	1.06
医療・看護・介護	1.57	1.02

■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザーのシフト数（総勤務回数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、四半期ごとの推移を比較した。
- 集計対象件数：約20万件
注) 『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年9月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

2. シフト人数（スタッフ数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）



2022年 12月 22日

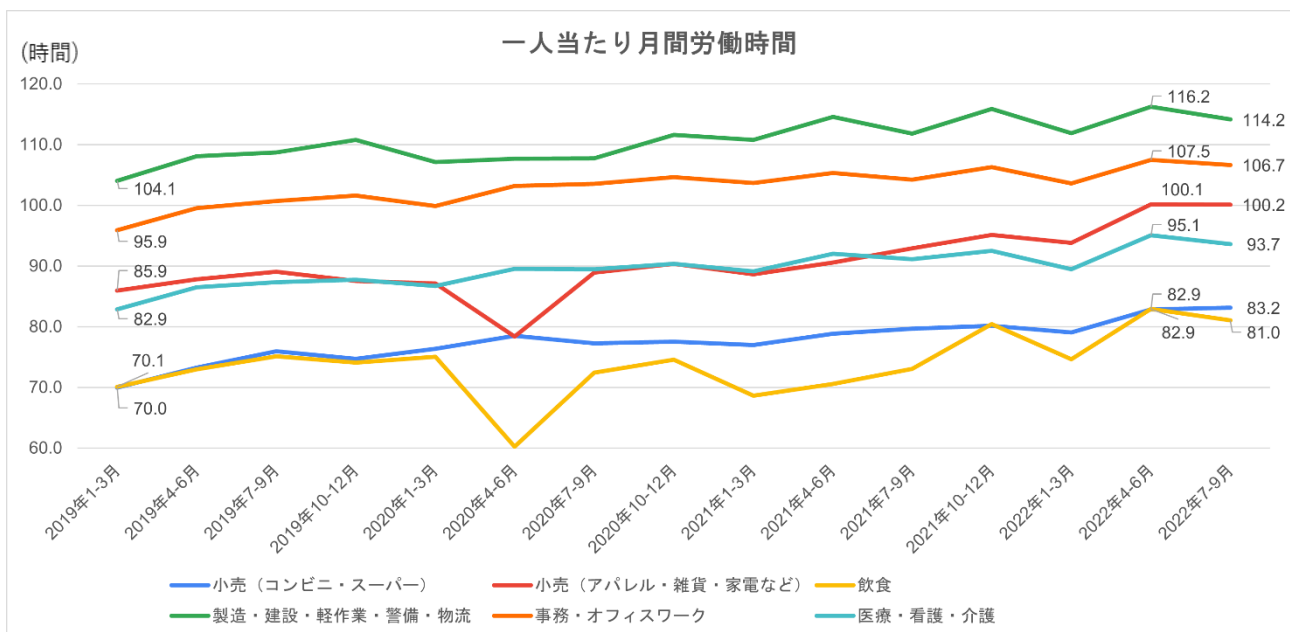
■ 2022年7-9月のシフト人数（スタッフ数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年4-6月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.83	1.01
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.33	1.05
飲食	0.84	1.05
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.17	1.04
事務・オフィスワーク	1.62	1.08
医療・看護・介護	1.55	1.06

■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザーが登録する勤務先のシフト人数（スタッフ数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、四半期ごとの推移を比較した。
- 集計対象件数：約20万件
注) 『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年9月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

3. 一人当たり月間労働時間の推移



2022年12月22日

■ 2022年7-9月の一人当たり月間労働時間の推移（単位：時間）

業種	2022年 7-9月	2019年		2022年	
		1-3月比増減		4-6月比増減	
小売（コンビニ・スーパー）	83.2	+13.2	+18.9%	+0.3	+0.3%
小売（アパレル・雑貨・家電など）	100.2	+14.2	+16.5%	+0.0	+0.0%
飲食	81.0	+10.9	+15.6%	-1.9	-2.3%
製造・建設・軽作業・警備・物流	114.2	+10.1	+9.7%	-2.1	-1.8%
事務・オフィスワーク	106.7	+10.8	+11.2%	-0.8	-0.7%
医療・看護・介護	93.7	+10.8	+13.0%	-1.4	-1.5%

■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザー一人当たりの3か月ごとの月間平均労働時間を算出。
- 集計対象件数：約20万件
注) 『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年9月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

4. まとめ



赤水 佑樹
(くつみず ゆうき)
『Airシフト』
『シフトボード』
プロダクト担当者

このシフト動向調査は、シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』を2019年1月から2022年9月まで継続して使用しているユーザーを抜き出し、2019年1-3月を起点として、その対象ユーザーのシフト数（勤務回数）がどのように増減しているか、シフト人数（スタッフ数）が業種間でどのように変動（移動）しているか、また、一人当たりの月間労働時間がどのように増減しているかについて分析したものです。

2022年7-9月のシフト数およびシフト人数は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年1-3月と比較すると「小売（コンビニ・スーパー）」「飲食」の2業種でいずれも減少しています。コロナ禍での行動制限を受けて、特に飲食業のスタッフが他業種に移動したことが当該データから読み取ることができますが、その影響もあって「小売（アパレル・雑貨・家電など）」「製造・建設・軽作業・警備・物流」「事務・オフィスワーク」「医療・看護・介護」の4業種では増加しているようです。

一方で、直前の2022年4-6月と比較すると、シフト数・シフト人数ともに6業種全てで増加しています。「飲食」のシフト人数は、2022年4-6月比で1.05と増加しており、2021年9月末に行動制限が解除されて以降、コロナ前の水準には戻り切っていないものの、徐々に回復してきています。また、「事務・オフィスワーク」はシフト数が2022年4-6月比で1.06、シフト人数が1.08と、6業種の中で最も伸びています。この業種にはコールセンターやIT関連の業務も含まれていますが、昨今のIT需要の高まりや、コロナ禍によりオンラインでの購買や業務支援などが活発化してコールセンター需要が高まったことなどが、シフト数およびシフト人数増加の一因と考えられます。

一人当たりの月間労働時間については、2022年7-9月は直前の4-6月と同様に高水準で、全6業種においてコロナ前の2019年1-3月比でそれぞれ約10~20%ほど増加しています。

足元では行動制限が発出されておらず、with コロナの生活様式の浸透に伴う経済活動の再開を受けて各

2022年12月22日

業種で人材需要が高まる一方で、人口減少や少子高齢化に伴う構造的な人手不足の影響もあって人材確保が思うように進まず、一人当たりの労働負荷が高まっているものと推測されます。

■ Air シフト／シフトボードについて

『Air シフト』は、やりとりも作成もラクになるシフト管理サービスです。シフト表と一体になったチャットを使ってスタッフとやりとりができるので、シフトの作成と管理はもちろん、急な調整や連絡などもこれひとつで完結します。2018年4月にサービスの提供を開始し、飲食、小売り、サービスなどの幅広い業種で活用が進んでいます。

『Air シフト』さえあれば、スタッフの希望はシフト表に自動反映、書き写しの手間やミスがなくなります。急な出勤依頼や変更調整も、シフト表を見ながらチャットで可能、シフト表にも同時に反映されます。導入したお店からは、「今まで3時間以上かかっていたシフト作成が30分程度になった」「辛かったシフト管理が楽しくなった」「スタッフの定着率が向上した」などの声を頂いています。

さらに、スタッフ用シフト管理アプリ『シフトボード』（2022年8月末時点で累計880万ダウンロード）と連携することで、スタッフはいつでもどこでもシフトの提出、確認、連絡が可能。店長だけでなく働くスタッフにも嬉しいサービスです。

私たちは、事業を営むみなさまの「思い描く事業運営や自分らしいお店づくり」を、これからも支援し続けます。

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>